助産師教育
NEWS LETTER
公益社団法人
全国助産師教育協議会
Japan Society of Midwifery Education
No.84 2015. 1.25

助産師の役割拡大を見据えた助産師教育の将来ビジョンを！

東京医療保健大学看護学研究科　高度実践助産コース　大　石　時　子

保助看法改正による看護師の役割拡大

平成 26 年 6 月、「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」が成立した。この中には保助看法第 37 条の改正が含まれており、看護師が指定研修機関において、当該特定行為の研修を受ければ特定の行為を包括的支持に基づいて行えることとなった。これらの特定行為は経口・経鼻気管挿管の実施等 41 項目あり、平成 27 年 10 月 1 日から施行される。厚労省は 2025 年までに研修終了者を 10 万人超を目指すと発言したとも報道されている。

助産師の役割拡大はどうなっているのか

一方、助産師に関しては、「チーム医療の推進に関する検討会」の報告書（平成 22 年 3 月）を受けた特定看護師（仮称）の制度化が急速に検討された折、日本看護系学会協議会が特定看護師（仮称）の実施する医行為について各学会の見解を取りまとめ提言しようとした際、日本助産学会が“助産師が行う特定の医行為”を提言している。その中には、超音波検査、膣スメア検査、裂傷縫合、GBS 陽性の場合の抗生剤静脈注射等が挙げられている。

しかし、その後看護師の特定行為とは別途に検討すべきという意見等もあったようで、助産学会が挙げた上記の項目はそれ以降、厚生労働省等での検討に挙がっていない。

裂傷縫合については平成 22 年度から厚生労働省科研費による「チーム医療の推進における看護師等の役割拡大・専門性向上に関する研究」の中に「会陰裂傷縫合ワーキンググループ」が組織され、医師と助産師によって研究が行われた。その結果、助産師が研修を受け、医師との緊密な連携がとられる状況下では、裂傷Ⅱ度までで母子が安定していれば「助産師が会陰裂傷を縫合できるものと思われた」と報告されている。

しかし、実際には、産婦人科医師団体から、助産師の縫合研修に強い反対が示されたようで、今日まで研究の成果は発展を見ていない。

明治から変わらない助産師の業務に当然付随する行為の解釈

助産師のチーム医療の中で果たす役割を考える時、保助看法 37 条と 38 条に規定されている、助産師の業務に当然付随する行為と臨時応急の手当は非常に重要な規定である。

「助産師の業務に当然に付随する行為」は「へその緒を切り、浣腸を施し、その他」とされるものであるが、臍帯切断と浣腸は、明治 32 年の産婆規則以来、全く変わっていない。昭和 26 年に「血圧計の使用」「児心音の聴取」「骨盤計の使用」について、厚生省がこれらを認めたのが唯一の変化である。

「助産師の業務に当然に付随する行為」が何であるのかは、時代によって当然違うはずである。今日では、超音波は産科医療に欠かすことができなくなっており、「助産師の業務に当然に付随する」ようにも思われるが、法的整備が必要である。

助産師教育の将来ビジョンに役割拡大を

助産師の卒業時の到達目標は、助産師の役割、つまり業務範囲と密接に関連していることは言うまでもない。現在、会陰裂傷縫合は「演習でできる」が卒業時目標であり、超音波に関する目標は特定されていない。救急処置としては「正常範囲を超える出血への処置」が最新の改正で「知識としてわかる」から「演習でできる」にアップされた。

ICM の必須能力では、助産師は超音波、縫合はもちろん、ショックの特定と管理、胎盤用手剥離等の救急処置、そのほかに膣スメアも必須能力の 1 つである。

ICM は助産師を、ICM の定めた必須能力を持つ者と定義している。しかし日本の助産では必須能力又は卒業時の到達目標となっていない能力が多々含まれている。

日本で始まっている看護師の役割拡大の動きの中で、助産師は今後どのような役割を果たしていくべきなのか―卒業時の到達目標を考える時、今後の日本の将来像を見据えつつ、助産師の役割拡大をもう一度真剣に考える時に来ている。約 150 年間、ほとんど変わっていない「助産師の業務に当然に付随する行為」を日本の将来の母子保健システムのために今こそ発展させるべきである。

扉 …… 1
教育・活動報告 …… 2
ニュース …… 3
全助協からのお知らせ …… 5
トピック …… 10
わかばの部屋 …… 12
理事会報告 …… 13

九州・沖縄地区研修会報告

日本赤十字九州国際看護大学　准教授　**石　山　さゆり**

日　時：平成 26 年 8 月 2 日（土）
場　所：日本赤十字九州国際看護大学
出席者：49 名（会員）
担当校：日本赤十字九州国際看護大学
司会・議長：石山さゆり
内容

1　協議・提案
＜協議事項＞
①平成 27 年度全国助産師教育協議会総会
開催日：平成 27 年 6 月 5 － 6 日
場　所：福岡大学
②平成 28 年度第 41 回全国助産師教育協議会全国研修会
担　当：九州・沖縄地区
場　所：宮崎県予定
③平成 27 年度全国助産師教育協議会理事候補の推薦
＜提案事項＞
会員校から事前に提出された以下の 3 提案について、各校の現状や意見交換を行った。
①助産師教育の教育期間延長について
②ハイリスク実習の組み立てについて
③メディアリテラシー、個人情報保護について

2. 特別講演
テーマ：「助産師の役割と社会の多様性」
講　師：日本赤十字九州国際看護大学
エレーラ・ルルデス准教授
文化的多様性を理解することは非常に困難であるが、それとヘルスケアは密接に関係している。特に妊娠・出産に関する文化は多様であり、在日外国人女性の医療ニーズも多岐にわたる。講師は実際に医療通訳をコーディネートしており、またペルー共和国でダイレクトエントリーの助産教育を受けた立場からその現状と必要性について講演していただいた。

3. 助産師教育コロキアム
テーマ：将来の助産師教育を考える
－あるべき卒業時の到達像と教育－
基調講演：佐藤香代氏（全国助産師教育協議会理事）の後、4 名の話題提供者（助産師長　木原由美子氏、産科医　遠城幸子氏、助産師教員　大石和代氏、母親の立場　浅尾香氏）から助産師教育の現状・課題と出産経験者からの助産師への期待が述べられ、その後グループ討議を行った。助産師が対象とする人々の多様化・複雑化、ICM グローバルスタンダードを踏まえた教育年限や助産師の能力などから、これからの助産師教育のあるべき姿を考えることは喫緊の課題である。コロキアムには会員のみでなく、大学院生、臨床指導者など 61 名の参加があり、活発な討論が行われた。異なる立場の者が一同に介する貴重な機会であり、忌憚のない意見が多く出され有意義なものとなった。これらのことは助産師のみでなくこれからも継続討議し、社会に発信すべき課題であると再認識した。
今回は地区研修会と教育コロキアムを同日に開催し、教員のみでなく多くの参加者と今後の助産師教育を考えることができ、内容の濃い充実した研修会となった。

脳障害の児を減らすために
－産科医療補償制度　再発防止に関する報告書－より

榊原記念病院産婦人科　**桂　木　真　司**

2014年4月に産科医療補償制度　再発防止に関する報告書～産科医療の質の向上に向けて～が発行されました。その中で助産師業務とも関連のある部分に関して4項目があります。日々の臨床において大変重要な事が書いてありますのでこの機会に一読しておきましょう。

Ⅰ．子宮破裂について

1）子宮破裂の危険因子の管理について

帝王切開術の既往、子宮手術の既往、子宮奇形、子宮筋腫合併等の子宮破裂の危険因子がある妊産婦については、連続的モニタリングによる母児の評価、訴えの丁寧な聴取、および超音波断層法の所見を参考にするなど、特に慎重に管理する。

2）帝王切開術の既往がある妊産婦の管理について

帝王切開術既往妊産婦については、前回帝王切開術の術式等の情報を十分に把握するとともに、妊産婦への指導を含めて分娩徴候の管理を行い、また分娩方針および予定帝王切開術とする場合の時期を早めに決定する。

Ⅱ．子宮内感染について

1）前期破水や母体発熱がみられる場合の対応について

前期破水や母体発熱がみられる場合は、子宮内感染を考慮し、血液検査を実施するとともに、胎児のwell-beingに注意する。

2）臨床的絨毛膜羊膜炎の診断基準に該当する場合の対応について

臨床的絨毛膜羊膜炎の診断基準に該当する場合は、定期的な検査の継続によりデータの推移に十分に注意し、連続的モニタリングにより慎重に管理するとともに、状態の悪化がみられたときには速やかに早期の分娩を目指す。

3）臨床的絨毛膜羊膜炎が疑われる場合の胎児心拍数陣痛図の評価について

臨床的絨毛膜羊膜炎が疑われる場合は、母体のバイタルサイン・血液検査等の所見を確認するとともに、分娩監視装置による連続的モニタリングや頻回の胎児心拍数聴取により慎重に胎児の状態を評価する。また、以下のような場合は特に慎重に評価し、その後に異常所見が出現したときに迅速に対応できるよう急速遂娩の準備や小児科医への連絡などを検討する。

① 胎児頻脈（160拍／分以上）がみられる場合
② 反復する一過性徐脈が持続する場合
③ 一過性頻脈がない状態が持続する場合
④ 基線細変動の減少が持続する場合

4）臨床的絨毛膜羊膜炎が疑われた場合の胎盤病理組織学検査の実施について

母体発熱が認められるなど臨床的絨毛膜羊膜炎が疑われる所見があった場合や新生児仮死など異常分娩の場合は、その原因究明の一助として胎盤病理組織学検査を実施する。また、その際は正確な結果が得られるよう、分娩時の詳細な情報についても併せて提供する。

Ⅲ．クリステレル胎児圧出法について

1）安全なクリステレル胎児圧出法の実施について

クリステレル胎児圧出法の実施にあたっては、胎盤循環の悪化、子宮破裂、母体内臓損傷等の有害事象が起こる可能性があることを認識し、以下に留意する。

① 適応・要約を十分に検討の上、数回の施行で娩出に至ると考えられるときにのみ実施する。特に、胎児先進部が高い位置における実施は、児娩出までに時間を要することにより児の状態を悪化させる可能性があることを認識し、より慎重に検討する。
② 陣痛発作に合わせた骨盤誘導線に沿って娩出力を補完するよう実施する。また、術者の全体重をかけるなど過度な圧力がかから

ないように実施する。

2）クリステレル胎児圧出法の実施中の母児の評価と分娩方法の見直しについて
実施中は可能な限り分娩監視装置装着による連続的モニタリングを行い、陣痛の状態や胎児の健常性など母児の状態を常に評価し、1～2回試みても娩出されない場合は、経腟的に分娩が可能か否かを判断し、適宜分娩方法を見直すなど、漫然と実施しない。

3）双胎の第1子へのクリステレル胎児圧出法の実施について
双胎の経腟分娩における第1子へのクリステレル胎児圧出法の実施は、胎盤循環不全により第2子の状態が悪化する可能性があることから、慎重に検討する。

4）クリステレル胎児圧出法の実施に関する記録について
クリステレル胎児圧出法を実施した場合は、急速遂娩等と同様に、適応、実施時の子宮口開大度や胎児先進部の下降度等の要約、開始時刻や終了時刻、実施回数、実施時の胎児心拍数や陣痛の状態などの経過について診療録等に丁寧に記載する。

IV. 搬送体制について

1）機能と役割に応じた紹介や搬送の判断基準の明確化について
各地域における自施設の機能と役割を踏まえて、ハイリスク妊娠や異常分娩を診断した場合、自施設での対応が可能であるか、高次医療機関へ紹介や搬送をする必要があるかを迅速に判断することができるよう、あらかじめ搬送の判断基準を明確にしておく。

2）速やかに搬送するための体制づくりについて
異常等の発見や診断から児娩出までの時間をできるだけ短くするよう、緊急時連絡経路の確認やシミュレーション、および周辺の分娩機関との情報交換や提携など、日頃から速やかに搬送するための体制づくりに取り組む。

3）円滑に治療を開始するための搬送元と受け入れ分娩機関の情報連携について
搬送受け入れ分娩機関到着後に円滑に治療が開始できるよう、搬送元分娩機関は重症度や緊急度などについて搬送受け入れ分娩機関に十分な情報提供を行う。また、搬送受け入れ分娩機関は積極的な情報把握を行うなど、互いの連携を図る。

4）円滑に治療を開始するための搬送受け入れ決定後の事前準備について
搬送受け入れ分娩機関は児娩出までの時間をできるだけ短くするために、搬送受け入れ決定後は各部門への事前連絡、検査・手術等の事前準備を行い、到着後に円滑に治療を開始することができるようにする。

参考文献

(1) 第4回産科医療補償制度再発防止に関する報告書～産科医療の質の向上に向けて～公益財団法人日本医療機能評価機構産科医療補償制度再発防止委員会

助産師基礎教育テキスト
●多様化している助産師基礎教育のどのコースにおいても必要な、基礎的な知識と技術、態度を網羅しました。
数値データや法律、ガイドラインの解説等に伴う記述を毎年見直しています！
第1巻 助産概論 〔責任編集〕山本あい子 定価(本体3,400円＋税)
第2巻 女性の健康とケア 〔責任編集〕吉沢豊予子 定価(本体4,400円＋税)
第3巻 周産期における医療の質と安全 〔責任編集〕成田 伸 定価(本体3,400円＋税)
第4巻 妊娠期の診断とケア 〔責任編集〕森 恵美 定価(本体3,600円＋税)
第5巻 分娩期の診断とケア 〔責任編集〕町浦美智子 定価(本体3,600円＋税)
第6巻 産褥期のケア／新生児期・乳幼児期のケア 〔責任編集〕横尾京子 定価(本体3,600円＋税)
第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 〔責任編集〕遠藤俊子 定価(本体4,500円＋税)
新版 助産師業務要覧 第2版
Ⅰ 基礎編 福井トシ子 編 ●B5判 332頁 定価(本体3,000円＋税)
Ⅱ 実践編 福井トシ子 編 ●B5判 340頁 定価(本体3,000円＋税)
日本看護協会出版会
〒102-0084 東京都千代田区二番町4-3 二番町カシュービル3F
(営業部) TEL.03-6685-0340 FAX.03-6685-0341
【コールセンター(ご注文) TEL.0436-23-3271 FAX.0436-23-3272】
http://www.jnapc.co.jp

第 40 回　全国助産師教育協議会　研修会

近畿地区当番校

今年度の全国研修会はテーマを**「学生の学習力、教員の教育力アップを目指して」**とし、近畿地区で開催致します。

今回の研修は、日々の学生教育に役立ち、かつさまざまな体験をしながら学べるものをという趣旨で、多くの講師の方々をお招き致します。学生の学ぶ力をどう引き出すか、教員や指導者の教える力をどう身につけるかを皆様とともに学び、議論を深めたいと思っております。両日ともワークショップを設けておりますが、それぞれ 3 つのセッションから興味深いものをお選び頂くようにしています。

会場となる高槻市は大阪と京都のどちらからでも 15 分程度の立地にあります。大阪駅前のグランフロント、天王寺のあべのハルカス、今話題の USJ など楽しみも沢山ございます。

ぜひこの機会に活気あふれる大阪の地に足をお運びいただきたく、大勢の皆様のご参加をお待ち申し上げます。

研修会実行委員長　倉本孝子

〔参加申し込み〕

所定の申込用紙を当協議会の HP よりダウンロードし、以下へお申込み下さい。

◇申込み先　（株）ツアープランナーオブジャパン
担当：黒川　E-mail：kurokawa@tabi-tpj.com
☎ 03-3835-4111　　Fax　03-3835-4285

◇申込み締切り：平成 27 年 2 月 10 日（火）

◇会費：会員 7,000 円　非会員 10,000 円
別途資料代 1,000 円

◇昼食：弁当代 1 食　1,080 円

◇定員はございませんが、ワークショップについては会場収容人数の関係上、先着順となります。ご希望にそえない場合もありますことをご了承ください。

〔研修会の問い合わせ先〕

愛仁会看護助産専門学校　倉本　孝子
☎ 072-681-6031
E-mail:takako-kuramoto@ajknms.jp

日程：平成 27 年 2 月 28 日（土）
～ 3 月 1 日（日）
会場：愛仁会看護助産専門学校
大阪府高槻市古曽部町 1-3-33

プログラム：

〔2 月 28 日〕10:30 ～ 17:30

＊ご挨拶・講演
文部科学省、厚生労働省

＊ワークショップ**「学生の学ぶ力を育てる」**
①アクティブラーニングを促す教育技法
②学生の学ぶ力を伸ばすコーチング
③学生の学ぶ力を育てる行動特性分析とコミュニケーションスキル

＊教育講演
「魅力的な教員力の獲得を目指して」
京都大学大学院教授　我部山キヨ子

＊シンポジウム
「助産師教育の将来ビジョン」

〔3 月 1 日〕9:15 ～ 15:30

＊教育講演**「OSCE と臨床推論」**
大阪南医療センター看護師長　伊藤美栄

＊教育講演
「主体的な成長を意図した社会人基礎力の育て方」
岐阜大学名誉教授　箕浦とき子

＊ワークショップ**「教員の教育力を高める」**
①事例検討の進め方の工夫
②学生とのアサーティブなつきあい方
③ネゴシエーション能力を高める

＊参加者には「助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）」レベルⅢ認証申請の研修（教育）修了証を交付します。

平成 27 年度　定時社員総会のおしらせ

庶務・総務担当理事　**村　上　明　美**

いつも全国助産師教育協議会の公益事業活動にご理解、ご協力をいただき心より感謝申しあげます。本年度は、定時社員総会にて島田啓子会長より提案のあった「助産師教育の将来ビジョン」について、将来構想委員会が中心となり、各地区の活動としてコロキアムを開催し、さまざまな立場からご検討いただきまして誠にありがとうございました。

さて、本年度 6 月の神奈川県での定時社員総会では、創立 50 周年記念式典・祝賀会を併せて挙行いたしました。月日の過ぎるのは早いもので、次年度の定時社員総会について皆様にお知らせする時期となりました。

平成 27 年度の定時社員総会は福岡県での開催となります。本年度は創立 50 周年記念事業と重なったため、例年とは異なるスケジュールでの定時社員総会でしたが、平成 27 年度は従来の形に戻し、会員の皆様とじっくり意見交換ができる時間を確保する予定です。

以下の予定で開催されますので、会員の皆様におかれましては万障繰り合わせてご参加いただきますようお願い申し上げます。

なお、既に皆様にはお知らせしておりますが、本年度は役員(理事のみ)改選の年に当たります。現在、選挙管理委員会を立ち上げ、鋭意準備を進めております。

役員は、定款第 15 条 1 項において「社員総会において選任される」ことになっておりますので、その点をご理解いただき、ぜひとも定時社員総会にご参加くださいますよう、重ねてお願い申し上げます。

日　時：平成 27 年 6 月 5 日（金）・6 日（土）
場　所：福岡大学
〒 814-0180 福岡市城南区七隈八丁目 19-1）

Willnext（ウィルネクスト）は助産師さんの医療現場からプライベートまでのもしもif をサポートします！

業務中の「もしも」には・・・
＜助産師さんの賠償責任保険＞
－看護職賠償責任保険－
たとえば・・・
- 看護業務中に生まれたばかりの女児に火傷を負わせてしまい、妊産婦から訴えられた。
- 看護業務中に患者さんからお預かりしたメガネを壊してしまった。
- 看護業務中に病院の医療機器を壊してしまった。　など

医療現場のifをサポート！

プライベートの「もしも」には・・・　団体割引等で、大きな割引率が適用されています！
＜普通傷害保険・医療保険など＞
普通傷害保険（約 68% 割引）・・仕事中もプライベートでも OK！
医療保険（1 年契約用）（約 65% 割引）・・疾病による入院や手術費用をしっかり補償します！
がん保険（1 年契約用）（約 65% 割引）・・がんによる入院や手術費用をしっかり補償します！
団体長期障害所得補償保険（30% 割引）・・ケガや病気で働けなくなった時の、所得減少分を補償します！
＊上記保険は任意に選択してご加入いただけます。
＊医療保険・がん保険は一年契約用です。

プライベートのifをサポート！

このご案内は Willnext の概要をご紹介したものです。詳細は団体の代表者の方にお渡ししてある保険約款によります。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明」をよくお読みください。
ご不明な点などがある場合には、代理店までお問い合わせください。

Willnext
あなたを支える保険です

制度運営：一般社団法人日本看護学校協議会共済会
引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社
（担 当 課）医療・福祉法人部 法人第一課
〒102-8014 東京都千代田区三番町 6-4 ラ・メール三番町 9 階
TEL：03-3515-4143

資料請求・お問い合わせ先
代理店：㈱メディクプランニングオフィス
〒104-0033　東京都中央区新川 2-22-6 SJI ビル 2F
E-mail：willnext@medic-office.co.jp
0120-847861
携帯・PHS OK　9:00 ～ 17:00（土・日・祝日・年末年始を除く）
13-T-12345（平成 26 年 3 月作成）

助産師教員のキャリアラダーの創設

京都大学大学院医学研究科，全国助産師教育協議会理事　**我部山　キヨ子**

昨今，看護系教育機関の増加に伴い，教員不足や教員の質が論議され，卒業時の学生の到達度でも教育機関によって大きな差が生じています。組織強化委員会では，助産師教育の質を担保するために，助産師教員の経験年数に合わせた標準的能力を精査し，助産師教員が自律して成長していくためのキャリアラダーを作成しました。

1. 作成の経緯

以下の3回の調査結果･分析を重ねて作成しました。

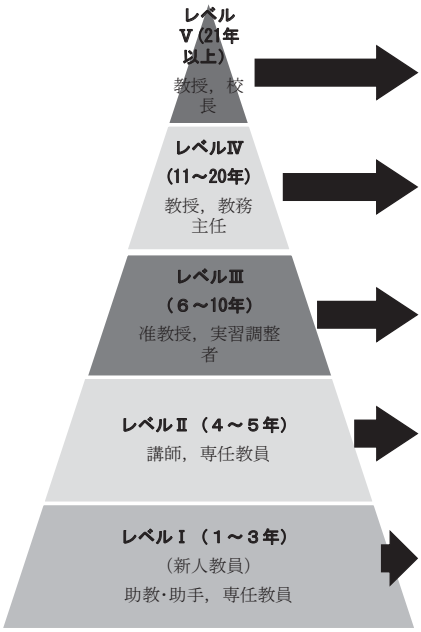
1）基礎調査ー調査期間：2011 年 10 月，対象：全国助産師教育協議会（以下，全助協とする）の正会員 126 校の助産師教員 604 名，調査方法：郵送による無記名調査，調査内容：①対象者背景，②助産師教育に必要な能力項目（教育能力，臨床能力，研究能力，管理能力，人間性の 5 領域），③項目内容に関する意見など。

2）デルファイ法を用いた質問紙調査ー（1）【第 1 回目】調査期間：2013 年 2 ～ 3 月，対象：助産師教育機関代表者（全助協の平成 24 年度正会員 131 校）2 名，計 262 名，調査方法：郵送による無記名質問紙調査，調査内容：①対象者背景，②助産師教育に必要な能力項目（教育能力，臨床能力，研究能力，管理能力，人間性の 5 領域を因子分析により項目を再構築して使用），**(2)【第 2 回目】**調査期間：2013 年 4 ～ 5 月，対象：第 1 回目調査で 2 回目の調査に同意が得られた機関代表者，調査方法：郵送による無記名質問紙調査，調査内容：質問紙の構成は第 1 回目に準じ，助産師教育に必要な能力項目は前回の調査で得られた中央値（50％タイル）と第三四分位数（75％タイル）を記載。

2. キャリアラダーの概念図（図 1）

概念図は教員の活用しやすさを考慮して，4 能力

助産師教員のキャリアラダー



	臨床能力	教育能力	研究能力	管理能力
レベルⅤ（21年以上）教授，校長	・母子保健，周産期医療，女性健康政策などの策定・実施に参画できる。	・国内外の動向に合わせてカリキュラムを構築できる。	・複数の研究チームを統括し，リーダーシップを発揮できる。 ・研究指導のスーパーバイズができる。	・一般的及び総合的な管理能力を基に、円滑な組織運営が出来る ・組織を評価し，改革できる。
レベルⅣ（11～20年）教授，教務主任	・助産ケアの質向上の取り組みに参画できる。	・助産学全体のカリキュラム設計及び評価修正ができる。 ・教員のロールモデルとなることができる。	・研究指導ができる。 ・専門領域の査読ができる。	・教育理念・目標・方針を理解し，管理全般を担うことが出来る。 ・総合的な管理能力（緊急・災害など）を身につける。
レベルⅢ（6～10年）准教授，実習調整者	・助産実践能力を維持できる。 ・臨床における教員のロールモデルになることができる。	・助産学の一領域のカリキュラム設計，教授，評価修正ができる。 ・教材の開発ができる。	・質的研究，量的研究を修得する。 ・研究法の講義ができる。	・一般的な管理能力（教育管理の知識・技術・態度など）を身につける。
レベルⅡ（4～5年）講師，専任教員	・ライフサイクル各期の助産実践能力を向上できる。 ・臨床指導者のロールモデルになることができる。	・助産学の一科目をカリキュラムに沿って組み立て教授できる。	・研究計画が立案でき，研究を実施できる。 ・統計処理を修得する。	・教育理念・目標・方針を理解し，管理の一端を担うことが出来る。
レベルⅠ（1～3年）（新人教員）助教･助手，専任教員	・エビデンスに基づいた周産期ケアができる。 ・学生のロールモデルになることができる。	・講義の一部が教授でき，演習実習指導ができる。	・文献検索及び文献クリティークができる。	・教育理念・目標・方針を理解し，行動できる。

注）大学系教育機関及び専門学校の両教員に対応するように，組織強化委員会が平成 24 ～ 25 年に行った基礎調査と 2 回のデルファイ調査に基づいて作成。
レベルⅠ～Ⅴの数値は**教員経験年数**を示し、教員の 50％がこの経験年数で右に記載する内容に到達することを示す。（組織強化委員会作成，2014.10.19）

（教育能力・臨床能力・研究能力・管理能力）を教員の職位別（専門学校および大学・短大系教育機関の双方）・教員経験年数別に簡略化して表しました。なお，調査項目に基づく，4 能力の詳細な内容は 2014 年度全助協総会で報告済みです。

3. 各能力の内容と到達年数の大枠

臨床能力では，周産期の臨床能力は新人教員（1～3 年），ライフサイクル各期の助産実践能力は 4～5 年目で標準レベル（50％の教員が到達しているレベル）に到達していることが望まれます。一方，教員は臨床の第 1 線から遠ざかるため，最先端の臨床能力習得や維持にはかなりの困難が伴うことから，6 年目以降の教員は助産実践能力の維持・向上に努力することが必要です。中核となる**教育能力**は，おおよそ 5 年目までに備えることが望ましく，カリキュラム全体を設計・評価する能力は 11 年目以降に獲得していく能力となります。**研究能力**について，研究計画を立案し，実施するという研究遂行能力は 5 年目までに，6 年目以降は研究指導能力や研究環境整備能力を備える必要があります。**管理能力**では，一般的な管理を行う能力は 6 年目以降に標準レベルに到達するように務め，11 年目以降では管理全般を担う能力，21 年目以降では組織改革の能力を備えるように努力をすることが重要です。なお，**人間性**の全項目は新人教員で 75％タイル以上を占め，教員として備える基本的能力とみなされることから、ラダー表からは除外しています。

所属教育機関や教員個々の条件など様々な要因により，各能力の到達度は異なってきます。日常の多忙な業務の中で自己研鑽を継続的に行うことは極めて難しいことですが，教員の責務でもあります。このキャリアラダーは，数年毎に見直しを行う予定です。より実態に合わせて修正・改善を図るために，諸先生方が自己研鑽の目安として活用され，活用後の建設的なご意見を期待しております。

教員のキャリアラダーの作成に関わった組織強化委員会メンバー
担当理事：我部山キヨ子（京都大学）
委員長：眞鍋えみ子（同志社女子大学）
委員：柳吉桂子（京都大学），谷口初美（九州大学），高田昌代（神戸市立看護大学），倉本孝子（愛仁会看護助産専門学校）千葉陽子（滋賀医科大学），和泉美枝（京都府立医科大学），脇田満里子（奈良県立医科大学）

お知らせ

全国助産師学生交流会 in Tokyo ～つながろう！全国の仲間たちと～

◆ **日　時**：2015 年 3 月 27 日（金）16:30 ～ 18:00
◆ **会　場**：きゅりあん 1 階小ホール
（東京都品川区東大井 5-18-1 JR 大井町駅から徒歩 1 分）
◆ **参加費**：無料
◆ **内　容**

1. 講演会
分娩に役立つ ” つぼ療法 ” 辻内敬子（せりえ鍼灸室）

2. 学生交流会
全国の仲間と交流する絶好の機会です！学びや夢を語りあいましょう。

◆ 申し込み方法 ◆
件名を「講演会＆交流会」とし、本文に氏名・学校名を記載のうえ、下記アドレスまでお申し込みください。
kataokakaken@slcn.ac.jp（聖路加国際大学 : 片岡）申し込み締切：2015 年 2 月末日

平成 27-28 年度期役員選挙に関するお知らせ

選挙管理委員会　**谷口千絵・潮田千寿子・吉田安子・萩原直美・上田邦枝**

全国助産師教育協議会が公益社団法人として活動を開始して、2 期が経過しようとしています。本年度は平成 27-28 年度期の役員（理事）選挙の年になります。

選挙公示は、平成 27 年 2 月 10 日（火）に本会ホームページ上および電子メールにて通知いたします。正会員の皆様におかれましては、インターネット環境の動作確認、電子メールのアドレス登録の確認をお願いいたします。もしも不具合がある場合には、事務局までお申し出ください。所属機関・連絡先の変更がある方につきましても、最新の情報への更新をお願いいたします。

役員の種類と定数、立候補の要件および必要提出書類、立候補受付期間等に関しましては公示内容にてご確認ください。

会員の皆様におかれましては、公正な選挙が行われますようご協力お願いいたします。

選挙管理委員会の構成メンバーは以下の 5 名です。

委員長：谷口千絵（神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部）

委　員

潮田千寿子（東京女子医科大学大学院）

吉田安子（神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部）

萩原直美（日本赤十字社助産師学校）

上田邦枝（昭和大学保健医療学部）

全国助産師教育協議会創立 50 周年記念誌発行に向けて

創立 50 周年記念事業特別委員会　**村　上　明　美**

公益社団法人全国助産師教育協議会は、昭和 40 年に全国助産婦学校長会議として設立し、本年で創立 50 周年を迎えました。現在、創立 50 周年の大きな節目に記念誌発行に向けて、編纂作業を行っております。

記念誌の発行においては、本協議会が発足した当時から協議会の活動にご尽力いただいた竹内美恵子先生（元徳島大学）、平澤美恵子先生（元日本赤十字看護大学）、小田切房子先生（元埼玉県立大学短期大学部）の 3 名を顧問としてお迎えし、顧問の先生方のお力をお借りしながら島田啓子会長、高田昌代・村上明美副会長、熊澤美奈好監事、潮田千寿子幹事が中心となって進めております。

記念誌の内容は、50 年の歩み（年表）、50 年を振り返っての座談会、お世話になった先生方からの随想、6 月 20 日に挙行された創立 50 周年記念式典・祝賀会の様子、雑誌に掲載された全国助産師教育協議会の活動記事や多くの資料などを盛り込み、これまで日本の助産師教育を牽引してきた本協議会の歴史が凝縮された一冊になることと思います。

助産師教育の歴史を懐かしく振り返る意味でも、また、これからの助産師教育のあるべき姿を考察する意味でも、大変役に立つ記念誌となることでしょう。

皆様方には、来年 6 月の定時社員総会までにはお手元にお届けできる予定です。どうぞ期待してお待ちください。

ペリネイタル・ロスのケア
―助産師に求められる実践能力―

静岡県立大学　太　田　尚　子

命が生まれる現場において、死別はともすると陰に隠れてしまいがちである。しかしながら、助産師は、生きた命の誕生ばかりでなく、既に亡くなった命の誕生や、短い時間しか生きられない命の誕生においても、分娩の介助者であるとともにケア提供者である。従って、全ての助産師は、お産を取り巻く死別や看取りに関する知識・技術を身につけるべきであり、助産師学生の時から学習することが望ましい。お産を取り巻く死別には、流産・死産・新生児死亡・人工死産（以下、ペリネイタル・ロス）等が含まれる。今回は、ペリネイタル・ロスに関する助産師に求められる実践能力について、死産の場合と新生児死亡が予測されている場合を中心に考えてみたい。

Ⅰ．ペリネイタル・ロスのケアにおいて助産師に求められる実践能力

1. 告知以降の妊娠期：両親や家族の心理的側面を診断し、心理的危機を支援する

胎児死亡の告知や死亡が予測される場合の告知直後は、両親や家族の心理・社会的側面を診断し、対象の状況を把握することからケアが始まる。心理的危機状態に陥っているかどうか、感情・身体・認知・行動などの側面で、グリーフの症状が認められないかどうか、どのような感情や想いを抱いているか把握していく。支援としては、寄り添い傾聴しながら、ひとつひとつの疑問や不安に丁寧に対応していく。この時、母親だけでなく、父親、きょうだい（上の子）、祖父母も、ケア対象者であることを忘れないようにしたい。助産師は、父親や家族を母親の支援者として捉え、母親を支援するように強要することがあるが、それは決してしてはいけないことである。

2. 告知以降の妊娠期：両親や家族への出産準備・親準備を支援する

子宮内胎児死亡の場合でも、DIC（播種性血管内凝固症候群）の徴候がなく母体が健康な状態であれば、分娩誘発をするか、自然の陣痛発来を待つのか、出産の時期について両親の意向を考慮しながら話し合う。また、出産までの過ごし方についても選択肢を提示して、両親が子どもと一緒に過ごす時間を意図的につくれるように配慮していくなど、妊娠期からの胎児との思い出づくりは、後の両親の心理的状態によい影響を及ぼすことがある。例えば、出産の前に自宅に帰り家族水入らずの時間を過ごしたり、胎児を連れていきたいところに連れて行くなどして、両親の希望に沿って胎児との思い出づくりができるように支える。また、正常でないお産への恐怖や産痛に対する不安については、お産は基本的に普通のお産と変わらないことを説明しながら、産痛緩和、リラックスの方法、出産後のカンガルーケアや抱っこ、授乳などについてバースプランを用いて一緒に考えておくことで、出産準備や親になる心の準備ができるであろう。子どもが亡くなったとしても、両親は親になったことを認めてほしいし、親になることを支えてほしいニーズがあることを心に留めておきたい。

3. 分娩期：分娩進行に伴う産婦と家族のケアを行う

母親は、産痛や正常でない出産について不安を感じているので、分娩中、母親が付き添ってほしい人に付き添ってもらえるように配慮する。また、できるだけ同じ助産師がずっと寄り添いタッチングやマッサージをするなど、体に接触しながら安心感を与えることは重要である。産痛に関しては希望があれば、鎮痛処置も選択できるとよいかもしれない。ケアは、常に母親の意向を尊重し、母親が子どもを出産するという母親にしかできない役割を母親自身が成し遂げられるように、支援していく。また、家族にとっても普通のお産と同じように、新しい家族を迎えることを皆で、分かち合えるように、父親、きょうだい、祖父母も含めて生れてくる子どもを囲み、抱きしめ、写真を撮ったりできるような環境を整えていく。

4. 両親が親になることを支援する

死産であっても、新生児死亡が予測されていても、母親にとってはかけがえのないわが子である。

親になる過程を支えるため、両親が子どもと別れることを支援する前に、子どもに出会うことを支援

していく。例えば、亡くなった子どもに会うことや、子どもを抱き、着物を着せ、沐浴するなどの親行動を支援して、ご両親が親になっていくことを支えていく。また、火葬までのわずかな時間が、思い出づくりのための時間として、大変貴重である。ご両親は亡くなった子どもと一緒に写真を撮ったり、手形や足型をとったりする。子どもと、一緒に過ごした時間も大切な思い出になるため、火葬は急ぐ必要はない。火葬の時期は、葬儀屋や火葬場の予定によって決められるのではなく、ご両親が子どもと一緒にゆっくり時間を過ごした後、ご両親自身が、お別れができそうだと思った時にすることが望まれる。後に両親にとって宝物となる遺品を残せるよう、看護者はご両親に情報を提供しながら、遺品を残す支援をしていく。

5. 両親や家族の心理的側面を診断し、グリーフケアを行う

ご両親のグリーフは、退院後も長期間持続し、特に最初の1年間は、気持ちの揺れが大きくサポートが必要な時期である。また､1年後の命日が近づくと、再び気持ちの揺れが大きくなることが知られている。出産をした医療施設で継続ケアがむつかしいときは、地域に繋げていくことを考慮すべきである。希望があれば、他の体験者と会うこと、語ることができるセルフヘルプ・グループやカウンセリングに関する情報提供が望まれる。セルフヘルプ・グループは、悲しみを表出し共感する場であるだけでなく、子どものことを語り、子どもにしてあげられることを知る場、母親になることを支えられる場、他の経験から学ぶ場でもある。

6. 次の妊娠に向けた支援を行う

死産や新生児死亡で子どもを亡くした次の妊娠は、抑うつや不安が強く、死産後の妊娠の妊娠後期に2割の女性にPTSDが認められるという報告がある。また、亡くなった子どもに対する愛着と、これから生まれてくる子どもに対する愛着との葛藤の問題もあり、亡くなった子どもとの絆を維持する方が、新しい子どもとの関係を築きやすいこと、妊娠を急ぐことが悲しみの解決に結びつくわけではないことなど、リスクとベネフィットを説明し、両親自身が意思決定できるように支援する。

次の妊娠は、不妊治療や母親の年齢など様々な事情を考慮しながらも、母親の心理的な回復や新たな子どもとの関係性のためには、命日が過ぎ、心の揺れがある程度おさまるまでの約1年間、空けることが望ましい。このことを理解した上で、ご両親の希望に沿って支援していくことが必要である。

Ⅱ．ペリネイタル・ロスを助産師教育の必須学習項目へ

「助産師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」の中では、妊娠期の診断とケアの中に、「流早産・胎児死亡など心理的危機に直面した妊産婦と家族のケアを行う」という小項目がある。そして、助産師学生の卒業時の到達度は、「Ⅱ：指導のもとでできる」となっている。しかしながら、この項目を達成するためには、多様な実践能力を必要とし、またこの項目を評価する場合、どこに評価の視点を置くのか、また何をもって達成できたとするのかが曖昧であるため、実際に評価することは難しいと思われる。また、子どもが生存している早産の場合と、流産や胎児死亡で子どもと死別した場合を一緒に語ることは、心理的危機の程度やアプローチも異なり違和感がある。さらに、ペリネイタル・ロスの場合、妊娠期だけでなく、分娩期、産褥期、次回の妊娠、その後も継続的なケアを必要とし、助産師は中心的なケアの担い手として、グリーフケアを念頭に置いた実践能力を身につけることが必要である。これから助産師を目指す助産学生は全員、ペリネイタル・ロスの基礎的知識を学ぶ必要があるばかりでなく、母親やその家族への関わり方やケア内容について、演習レベルで学んでから卒業するべきであると私は考える。シナリオやケースを用いてより具体的に状況を設定して学ぶことが効果的であろう。また、体験者の話を聞く場を設けたり、手記を読んだりして、体験者の想いに触れる時間を持つことは、対象の想いを想像する力を養うことに繋がるであろう。ペリネイタル・ロスに関する学習をしないまま就職することは、遭遇する頻度や、対象や助産師自身へ与える影響から言っても、無謀といわざるを得ない。

まとめ

深い悲しみを抱えたご両親やご家族へ少しでもよいケアを提供できるようになるためにも、たとえ子どもが亡くなっても、母親や家族にとって少しでも意味のある体験となるよう、全員の助産師学生が、ペリネイタル・ロスの基本的な知識を身につけてから卒業するようになることを心から願っている。

「助産師教育奮闘記」

天使大学大学院助産研究科　講師　**佐々木　恭　子**

私が、天使大学大学院（札幌）に進学を決めたきっかけは、看護管理者の業務の一つである新人助産師教育に行き詰った経験からでした。臨床には、様々な助産師教育課程を修了した新人が就職してきます。経験値が異なる新人にどのように教育していくかが、常に課題でした。日本看護協会で示された新人助産師教育ガイドラインに沿って、部署オリジナルの教育内容の精選をしたりと、ある程度工夫はできていたように思います。しかし、今日の新人は、助産師としての独り立ちがなかなかできないまま1～2年が経過してしまう状況でした。分娩件数の減少も一つの要因ですが、これまでの新人教育体制では、現代の助産を担う人材育成につながらないということに気づきました。

そこで、天使大学大学院助産研究科“助産教育分野”に入学し、再度助産師教育に関する学習を深めていきたいと考えました。助産の初学者である助産基礎分野の院生と身近に接するとともに、成人学習、自己効力感、省察などの教授学習法を学ぶことができました。また、臨床助産教育実習においては臨床における指導者の役割が4つあると学ぶことができました。1つ目は教育（指導）、2つ目は監督、3つ目はロールモデル、4つ目は評価です。さらに、以前に自分たちが受けてきた臨床指導のようにではなく、臨床で学生を指導する際には“助産師が対象者に対して接するように、学生に対しても接することが望ましい”ということも、新たに学ぶことができました。

1年半の院生生活を終えると同時に、10月から天使大学大学院助産研究科で教員としての生活がスタートしました。11月10日からは、基礎分野1年生の後期科目で12週間にわたるマタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅰを担当、苫小牧の病院で、院生4人とともに実習に臨んでいます。実習前は、果たして自分に実習指導が務まるのか、院生が実習目標を達成できるようサポートすることができるのか、といった不安を感じ、緊張していました。実習が始まって約3週間が経過し、それぞれ前期の基礎実習（9週間）での分娩介助3例に加えて、4例目を経験し、2例ずつの継続事例も決定しました。夜間待機も始まり、いつコールされてもいい状況です。

実習指導を行う上で、最も大切にしているのは、“妊産褥婦さんのニードに沿った支援”を院生とともに行うことです。なぜなら、学生は妊産褥婦さんの協力があってこそ、助産ケア能力の獲得ができるからです。また、教育分野で学んだ、臨床助産教育における重要な役割を十分果たせるよう、日々奮闘しています。院生それぞれ個性も違い、価値観も違います。そうした院生のモチベーションを維持できるように、さらに長所を伸ばせるように、そして助産の知識・技術・態度の獲得ができるように支援していきたいと考えています。

◎医学書院の助産師向け書籍

マタニティ診断にもとづく
母性看護過程の授業設計
監修　青木康子／執筆　相沢澄子・篠原千鶴子・主濱治子・友部貞子・長島貴久代・平原春美
看護診断だけでなくマタニティ診断を用いて母性看護過程をどのように学生に教えるのか、授業設計と授業の展開を解説した書。母性看護学を担当する教員の必携書。
●B5　頁116　2014年　定価:本体3,200円+税　[ISBN978-4-260-01934-7]

分娩介助学　第2版　進　純郎
正常分娩から異常分娩まで、そのメカニズムと介助のしかたを丁寧に解説。母子の安全・快適な出産を成就するために、分娩介助者に必要な知識と技術を網羅している。
●B5　頁352　2014年　定価:本体4,800円+税　[ISBN978-4-260-01886-9]

妊婦健診に一歩差がつく
産科超音波検査　谷垣伸治
超音波検査の基本手技や画像の判読法、観察のポイントなど、豊富な画像を用いて解説。妊婦・胎児の健康管理だけでなく、保健指導のツールとして役立てる能力を養う。
●B6　頁120　2014年　定価:本体2,200円+税　[ISBN978-4-260-01947-7]

実践 マタニティ診断　第3版
編集　青木康子
マタニティ・サイクルにある女性と新生児を対象にしたマタニティ診断の診断名・定義・診断指標を示した『マタニティ診断ガイドブック　第4版』に、観察ポイントやケア計画作成の解説を加えた実践書。
●B5　頁328　2014年　定価:本体3,800円+税　[ISBN978-4-260-01898-2]

医学書院　〒113-8719　東京都文京区本郷1-28-23［販売部］TEL 03-3817-5657　FAX 03-3815-7804
E-mail sd@igaku-shoin.co.jp　http: // www.igaku-shoin.co.jp　振替 00170-9-96693

公益社団法人全国助産師教育協議会

平成 26 年度　第 1 回理事会議事録

日時：平成 26 年 6 月 19 日（木）15：00 ～ 17：50
場所：「相生」関内・馬車道
出席理事：島田啓子、井村真澄、我部山キヨ子、北川眞理子、倉本孝子、佐藤香代、高田昌代、高橋順子、村上明美
欠席理事：大石時子
出席監事：熊澤美奈好、村上睦子
出席幹事：渡邊典子
欠席幹事：潮田千寿子
書　　記：吉田安子
理事総数：10 名　出席理事：9 名
監事総数：　2 名　出席監事：2 名

議事次第
Ⅰ　会長挨拶
　総会および 50 周年記念式典・祝賀会が順調に進むよう、皆様のご協力をお願いしたい。

Ⅱ　報告事項
　1）庶務・総務
　　①平成 25 年度第 7 回理事会議事録の承認
　2）組織強化小委員会
　　①助産師教員の就業環境に係る調査
　　②会員校拡大策として使用するリーフレット完成
　3）教育検討委員会
　　①平成 26 年度第 1 回教育検討委員会報告
　　②「ミニマム・リクワイアメンツ」の最新版表示方法はこれまで「平成〇年度」としていたが、今後は「Vol」で統一
　4）生涯教育研修委員会
　　①平成 26 年第 1 回生涯教育研修委員会
　　平成 25 年度に開催した「助産学臨床指導者および専任教員研修、研修会実施報告書」は冊子にして全国に配布予定
　　②平成 26 年度当会センター事業の研修協力依頼文書
　　③平成 25 年度の収入支出決算書および平成 26 年度の収入支出予算書
　5）広報委員会
　　① HP 業者契約をオフィスミナルに依頼
　6）将来構想委員会
　　①助産師教育ファーストステージ研修、開講式
　　研修生 12 名、科目履修生 6 名在籍
　　②平成 25 年度第 8 回助産師教育研修研究センター運営委員会
　　今後教育環境をより一層整える必要があるため、場所を模索中
　　③近畿地区研修会
　　平成 26 年 8 月 2 日に開催される将来構想委員会・近畿地区研修会の説明

Ⅲ　審議事項
　1）総会運営
　2）平成 25 年度決算報告
　3）センターの運営と支出
　4）組織強化小委員会の委員の追加
　5）センターの研修会場
　6）個人会員の入会の承認
　7）個人会員からの理事会への検討事項
　　①全助協の事務所と研修会会場を早めに検討しておく必要性について要望があった。
　　②助産師教員の資格認定の発行に関して検討希望があった。
　8）総会講演資料
　9）広報委員会
　　①平成 26 年度発行予定のニュースレター案
　10）全国研修会開催日数
　　① 1 日のみの開催が認められるか。
⇒可能であるなら 2 日間のほうが、充実したものとなり、参加者も確保できるので望ましい。
総会の地区別打ち合わせで再検討する。

Ⅳ　その他
　1）母体保護法施行規則の一部を改正する省令案
　2）助産師教員に対する認定
（提案）全助協として、助産師教員が実践能力認定を受けることに対する意見を取りまとめたい。
⇒多くの意見が出され、継続して審議することとなった。

平成 26 年度　第 2 回理事会議事録

日時：平成 26 年 7 月 27 日（日）11：00 ～ 16：20
場所：本会事務所
出席理事：島田啓子、井村真澄、大石時子、我部山キヨ子、北川眞理子、倉本孝子、佐藤香代、高田昌代、高橋順子、村上明美
出席監事：熊澤美奈好、村上睦子
出席幹事：渡邊典子、潮田千寿子
書　　記：潮田千寿子
理事総数：10 名　出席理事：10 名
監事総数：　2 名　出席監事：　2 名

議事次第
Ⅰ会長挨拶
　総会、50 周年記念式典・祝賀会では協力いただいた理事の皆様に感謝したい。またこれから一歩進め

ていくことになる。

Ⅱ報告事項
1）庶務・総務
①平成 26 年度第 1 回理事会議事録の承認
②第 5 回定時社員総会議事録の承認
2）50 周年記念事業特別委員会
① 50 周年記念式典・祝賀会
参加者 131 名
②記念誌の進捗状況
3）会計
①平成 25 年度収支
②平成 26 年度総会収支計算書
4）組織強化委員会
①助産師教員の就業環境に係る調査
5）教育検討委員会
①「助産教育終了時の到達度レベル自己評価に関する実態調査」
6）広報委員会
①ホームページ委託の業者変更。情報発信がほぼオンタイムになった。
②会員専用パスワードの変更
7）将来構想小委員会
①全国の地区でコロキアムを行う。
②配布資料は共通のものを使用
8）5 日間研修
①受講生 26 名。東京、関西の研修生が多く、近隣の実習施設を希望している。
②補助金の申請

Ⅲ審議事項
1）第 40 回全国研修会
①進捗状況、検討事項
2）庶務・総務
①平成 26 年度要望書
②平成 27-28 年度役員改選　選挙管理委員会構成員
3）組織強化委員会:助産師教員のキャリアラダー
①前回の意見を参考に、教員の定義なども改め修正
4）平成 26 年度資格・専門能力委員会委員
5）教育検討委員会構成メンバー
①教育検討委員会を一つにまとめたので名称について意見をいただきたい。
＜決定事項＞
・「教育推進班」とし、班代表とする。
・担当理事は、2 名の理事名を記載する。
6）教育検討委員会規程
7）講師謝金支払基準変更
①宿泊費の変更
8）社会貢献委員会の活動内容の変更に伴う、委員の構成
①地域連携小委員会から社会貢献委員会になり予算や委員の検討
委員会は一つになったが、担当者を分担して別々に活動してもよい。予算の分担は委員会で決める。
9）コロキアム基調講演
①内容を統一する目的で資料を作成

Ⅳその他
1）ホームページに掲載する内容
2）助産実践能力推進協議会
3）外国からの最新情報
4）将来の助産業務に関し、助産に当然付随する行為をどのように考えるか
5）地区長総括の選出
6）平成 26 年度今後の理事会の日程
7）総会時の資料の取り扱い
8）国家試験問題プール問題

平成 26 年度　第 3 回理事会議事録

日時：平成 26 年 9 月 15 日（月祝）11：00 ～ 16：30
場所：本会事務所
出席理事：島田啓子、大石時子、我部山キヨ子、倉本孝子、佐藤香代、高田昌代、高橋順子、村上明美
欠席理事：井村真澄、北川眞理子、
出席監事：熊澤美奈好、村上睦子
出席幹事：渡邊典子、潮田千寿子
書　　記：潮田千寿子
理事総数：10 名　出席理事：8 名
監事総数：　2 名　出席監事：2 名

議事次第
Ⅰ会長挨拶
報告等要点をとらえ、審議を順調にすすめていただきたい。

Ⅱ報告事項
1）庶務・総務
①平成 26 年度第 2 回理事会議事録の承認
②自民党看護問題小委員会「平成 27 年度予算編成に向けた要望書」
③ 50 周年記念事業特別委員会
2）組織強化委員会
①助産師教員のキャリアラダーの概要
3）教育検討委員会
①大学院におけるモデルコアカリキュラム検討中。ワーキンググループを立ち上げる予定
4）全国研修会
5）将来構想委員会
①「助産教育修了時の到達レベル自己評価に関する実態調査」
6）助産師教育研修研究センター運営委員会

①平成 26 年度第 3 回研修センター運営委員会議事録
7）社会貢献委員会
8）国際委員会
9）将来構想委員会
①コロキアムについては、理事の皆さまの協力に感謝したい。意見は集計中

Ⅲ審議事項
1）平成 26 年度要望書
2）平成 27 年度「助産師教育セカンドステージ研修」募集要項
3）ニュースレター NO84・85 号企画案
4）ICM アジアパシフィック大会における全助協ブース
①担当は広報委員会と国際委員会。今後両委員会で検討する。
5）本年度の学生交流企画書案
6）生涯教育研修委員会
①全国研修会
②単発研修
・本年度の単発研修は旧生涯教育研修委員が担当する。
7）助産実践能力推進協議会試験委員推薦
8）Ad Hoc 委員会
9）リーフレット　社会貢献委員会

Ⅳその他
1）助産教育における「助産に当然付随する行為」の演習と実習の内容
①これらの内容について、継続的に検討していく委員会等が必要ではないか。
2）委員会名簿の確認
① Ad Hoc 委員会は一年限りの独立した委員会であり、次年度は、特別委員会はなくして教育検討に一致させていく。
3）第 11 回 ICM アジア太平洋地域会議・助産学術集会ボランテイア依頼
①事務局から会員校に配信
4）事務所移転に関する問題
①本日は情報提供のみであるが、今後は継続検討をしていく。
5）ファーストステージ研修を HP に掲示するか前回の検討事項
6）国会図書館からの資料の提示についての問い合わせ
① HP を保存して、希望があれば提供してくれる。許諾する。
7）いのちの選択・・・会員校にはメールでお知らせする。

平成 26 年度　第 4 回理事会議事録

日時：平成 26 年 10 月 19 日（日）11：00 ～ 16：00
場所：本会事務所
出席理事：島田啓子、井村真澄、大石時子、我部山キヨ子、北川眞理子、倉本孝子、佐藤香代、高田昌代、高橋順子、村上明美
（早退：井村、遅刻：大石）
出席監事：熊澤美奈好、村上睦子
出席幹事：渡邊典子、潮田千寿子
書　　記：潮田千寿子
理事総数：10 名　出席理事：10 名
監事総数：　2 名　出席監事：　2 名

議事次第
Ⅰ会長挨拶
今理事会はあと半年ほどであり、残りの理事会運営を考えたい。組織強化から教員のラダーを出しているが、理事会としては、正式に将来ビジョンについて意見交換していない。ラダーを出した上で話し合うのか等、方向性を個別的にでも、意見をいただきたい。

Ⅱ報告事項
1）庶務・総務
①平成 26 年度第 3 回理事会議事録の承認
②平成 27 年度選挙管理委員会
・2 月 10 日に役員選挙の公示（HP へ掲載、会員校へのメール配信）予定
・地区長会で地区推薦について徹底する。前回の反省を踏まえ、締切 2 日前に、地区長にリマインダーを出す。
2）会計
3）教育検討委員会
4）全国研修会
5）将来構想委員会
①コロキアムは順調に進んでいる。
6）助産師教育研修研究センター運営委員会
7）第 37 回助産師団体連絡会
8）社会貢献委員会
①災害調査 9 都道府県　助産師教育には被害がなかった。
②リーフレット
9）「第 3 回明日の象徴」授賞式

Ⅲ審議事項
1）組織強化委員会
2）平成 26 年度要望書
メールで調整
3）会員校募集記事
4）平成 27 年度保健師助産師看護師実習指導者講習会（特定分野）の運営
5）個人会員入会の承認

6）委員会名簿の確認

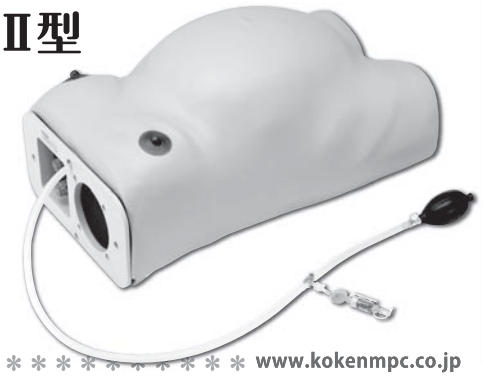
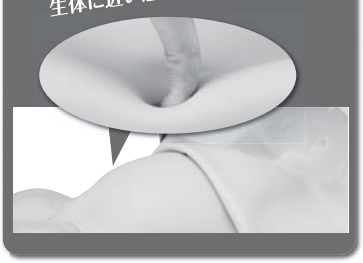
Ⅳその他
1）会計
2）「助産師になる」リーフレット
①中学生にも配布するが、「高校生のみなさんへ」というタイトルにした助産師のモデルコースとする。
3）ファーストステージ研修中退者の受講料の取り扱い
①次年度からは、一度振り込んだ受講料は返却しないことを明記する。
②次年度の受講権利があることをまず本人に伝え、その権利を行使できるようにする。
4）助産師団体連絡会議の頻度
①年一回以上を提案する。日程は、担当する団体に任せる。
5）英国ロンドン助産研修案内
①個人的なものであるので、公益社団法人である全助協からは出さない。
②業者の利益になるものは掲載しない。省庁や関連団体等のものについては、掲載する。
③それ以外のものについては、会長・副会長で検討し、必要時、理事会メールで審議し決定する。
6）事務局移転
①助産師会からは方向性についての提示はない。
7）その他
将来ビジョンを理事会でどのように検討するか意見交換

編集後記

新春を迎え、お慶び申し上げます。ニュースレター84号を無事発刊できました。皆様方には、お忙しい中、快く執筆をお引き受けいただき本当に感謝しております。少しでも最新のニュースやトピックをお知らせすべく、広報委員全員で取り組んでおります。より有意義な広報めざし、本年も、様々なご意見がいただけましたら、幸甚です。羊年の新春、会員皆様のますますのご発展を祈念いたします。

中西　伸子（奈良県立医科大学）
西川みゆき（京都光華女子大学）
古川　洋子（滋賀県立大学）
岡山　久代（滋賀医科大学）
佐藤　香代（福岡県立大学）

●助産師教育ニュースレター　第84号
2015年1月25日
発行人　公益社団法人　全国助産師教育協議会
Japan Society of Midwifery Education（J.S.M.E）
会長　島田　啓子
〒111-0054
東京都台東区鳥越2-12-2　日本助産師会館3階
電話・FAX　０３－３８６６－３０１７
事務局在室曜日
火・金（10時～17時）
http://www.1.ocn.ne.jp/~zenjomid
E-mail　zenjomid.1965@car.ocn.ne.jp

2014年9月発売
妊婦腹部触診モデルⅡ型
LM-105　標準価格¥450,000（税別）
レオポルド4段触診、胎児心音の聴診の練習、指導ができる等身大のモデルです。
KOKEN 株式会社 高研
札幌営業所 TEL(011)221-5888 ／ 仙台営業所 TEL(022)218-9540
東京営業所 TEL(03)3816-3500 ／ 名古屋営業所 TEL(052)950-6580
大阪営業所 TEL(06)6304-4854 ／ 福岡営業所 TEL(092)263-5101
www.kokenmpc.co.jp

リニューアル！
腹壁に、やわらかい新素材シートを採用し胎児や骨格の触診がより生体に近い感覚になりました。